

文芸・エッセイ集ご担当者様 6月3日発売 新刊、エッセイ集のご案内



鎌倉の出版社

港の人

ご注文は JRC へ

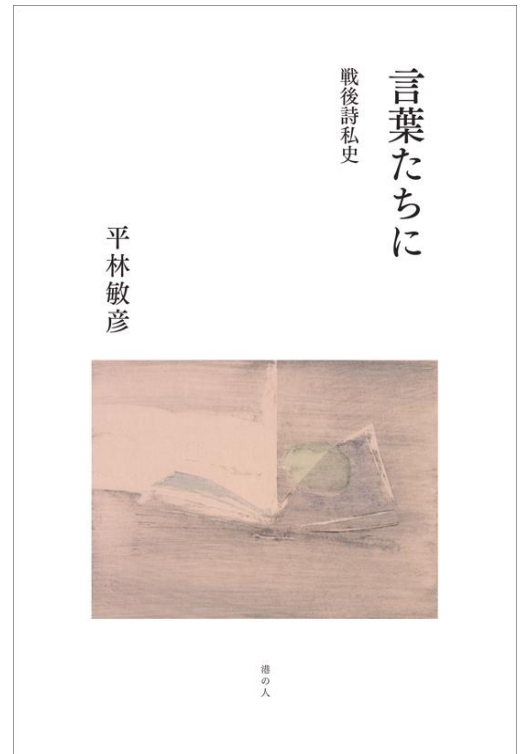
FAX 03-3294-2177

ことば
言葉たちに せんごししし 戦後詩私史 平林敏彦 著

ISBN978-4-89629-392-0 C0095 46判上製本カバー装/本文216頁/定価2420円(本体2200円+税)

戦後詩の現場に立ち続けた詩人の貴重な証言、
田村隆一、鶴見俊輔、中村真一郎、飯島耕一、
長田弘、辻井喬ら詩人たちへのオマージュ。
80年にわたる詩精神の命脈を伝える渾身の一冊。

平林敏彦は1924年生まれ、「荒地」派詩人たちとほぼ同世代の詩人である。戦前より詩誌への投稿をおこない、戦渦を生き延びた若き詩人たちの活躍を渦中で目撃した。本書は、詩とともに歩んだ生涯の回想や見送った亡き詩人たちへの思いを綴ったエッセイ、新作の詩などで構成し、約80年間にわたる詩精神の命脈を伝える。平林が復員後すぐに創刊した詩誌「新詩派」に掲載された、「荒地」創刊前の田村隆一が同胞の三好豊一郎への呼びかけとして書いた貴重な詩論(全集等未収録)も再録。



平林敏彦 ひらばやしとしひこ

詩人。1924年横浜市生まれ。戦中に詩作を始め、「若草」「文芸汎論」「四季」などに発表。復員後間もない1946年3月に同人誌「新詩派」を創刊、田村隆一らに原稿を依頼する。「新詩派」終刊後「詩行動」「今日」を創刊、1956年に創刊された詩誌『ユリイカ』の編集に携わるなど、戦後詩人たちと多く交流をもつ。1951年に第1詩集『廃墟』、1954年に第2詩集『種子と破片』を書肆ユリイカより出版。ほか多くの詩集を上梓。戦前から戦後にかけての詩人たちの動向を記録した『戦中戦後 詩的時代の証言 1935-1955』(2009年)にて第12回桑原武夫学芸賞受賞。

<p>番線印</p> <p>ご担当： 様</p>	<p>ご注文数</p> <p>冊</p>	<p>言葉たちに 戦後詩私史 平林敏彦著</p> <p>ISBN978-4-89629-392-0 定価2420円(本体2200円+税)</p> <p>港の人 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 3-11-49 電話：0467-60-1374 FAX：0467-60-1375</p>
---	-------------------------------------	--

*すべての取次からご注文は可能です(JRC経由)。返品条件付き注文扱い